



途上国にも日本にも 恩恵をもたらす大学連携



現地に根づく

大学と途上国の息の長い協力は、現地に確かな信頼関係を築き、新たな課題解決の原動力となる。帰国した留学生と日本との交流は切磋琢磨の関係へ発展。



ともに前進を

大学が途上国の研究機関・大学らと共同研究で得た経験や知識は、自校の研究レベルを向上させ、学生の国際化を育むエンジンにもなっている。



学びが羽ばたく

日本で学んだ留学生は、今や自国のみならず、地域や世界をけん引するリーダーとして活躍。日本を深く理解し、日本と相手国の架け橋でもある。

特集 大学連携

未来の リーダーをつくる

大学は、じつは国際協力の現場でもある。
人材を育成し、研究を行う大学とJICAによる連携は、
日本と途上国の双方に恩恵をもたらすものとなっている。

文●松井 健太郎



日本で開花し 自国の課題解決を

JICAが実施する国際協力には、大学と連携して取り組んでいるものも多い。大学は途上国からの留学生受け入れをはじめ、専門的な知識を生かして途上国で調査研究を行っている。

東京大学大学院工学系研究科で行われている留学生の受け入れプログラム「水道分野中核人材育成コース」は、JICAと大学との連携の一つとして2018年9月にスタートしたものだ。初年度にはカンボジア、ミャンマー、ラオスの水道事業体や水道所管官庁から4名の留学生が来日した。彼らは同研究科教授で水道工学が専門の滝沢智さんと風間しのぶさんのもとで学んでいる。留学生といってもすでに現場で活躍している幹部候補なので、「直接、経営改善に結びつけられるような研究課題を探し出し、現地（留学生の出身国）で調査を行い、収集したデータを日本人の大学院生と一緒に解析して、解決策を見出し、実践して、その結論を現場で実践

的な視点で課題を見える力が育まれたのです」と滝沢さんは喜ぶ。
大学とJICAが連携するメリット

「大学連携のメリットは、たとえば留学生事業なら、2年という長い留学期間に研究課題の解決策を日本人と一緒に考え、実践でき、場合によってはJICAの事業と連携した実践もできることです」と滝沢さんは話す。先述したヤンゴンの実証実験では水道メーターの交換費用がJICAの資金でまかなわれた。さらに金銭面の協力以上に、JICAの国際協力の実績に対して途上国の信頼が厚いため、JICAが関わることで、留学生が自国での調査や実証に協力を得られやすいところも大学には心強いという。

東京大学のみならず、日本各地の大学で学ぶ留学生に向けて滝沢さんは、「データを整理し、論理的に考え、課題の本質を見出す力を磨き、自国の課題解決に役立てられる応用力を身につけてほしい。帰国後も新しい課題を見つけ、解決策を提案・実行できる職員になることを期待しています」とエールを送る。

一方、日本の学生も留学生とともに学ぶことで多様性を知る。留学生の研究から途上国の現状に触れた学生たちは、その目が世界に

し、成功体験を持って自国へ戻ってもらうことを心掛けています」と滝沢さんは語る。

たとえば、ミャンマーのヤンゴン市開発委員会（YCDC）の水・衛生局に勤める留学生は、水道の無収水削減を研究テーマとして、水道メーターの更新による収益の向上を実証した。ヤンゴンでは水道メーターのおよそ8割が壊れているため、YCDCは水道料金を定額制で徴収している。「これでは大きな邸宅に暮らす人も小さな家に住む人も料金は同じになり不公平だ」と留学生は考えた。そこで試験的にある地域で水道メーターを交換し、実際に使用した水量に応じて料金を徴収したところ、料金収入の増加によりメーター交換のコストは約8か月間で回収でき、その後は安定した収益が得られることが実証された。

「そんな簡単な仕組みをなぜもつと早く導入できなかったのか。第三者には当事者より物事の真相が見えやすいとも言いますが、自身の職場とは異なる日本の大学という環境に身を置き、院生や教授と議論するなかで、客観的かつ長期

向かって開かれる。「また、自国に戻った留学生たちが日本人の考え方や仕事の進め方を伝えてくれることは、日本の理解者が増えることでもあり日本にとって有益です。国際協力のみならず、日本人が途上国で仕事を進める際に、現地に日本や日本人を理解し、信頼し応援してくれるリーダーが増えることでもあるのです」

東京大学大学院 工学系研究科教授 滝沢 智（たきざわ さとし）さん

1959年、東京都生まれ。東京大学工学部都市工学科卒業。同大学大学院工学系研究科都市工学専攻博士課程修了、工学博士。長岡技術科学大学建設系助手、建設省（当時）土木研究所下水道部主任研究員、JICA専門家としてのアジア工科大学環境工学科助教授などを経て、現職。専門分野は水道工学。土木学会環境工学委員会委員長など多くの委員も務める。

